



スズメ 版画会員 木村多伎子

第13回道展 U21講評 今、この時にしか表現出来ないこと



油彩会員 審査委員長

千代 明

新型コロナウイルス感染拡大防止により、1年延期されたU21の展覧会を今年はどうなる事かと心配していましたが、感染

対策を講じてどうにか開催することが出来ました。

長きに渡り、この経験した事のない環境下の中、作品と向き合っていた皆様におかれましては大変な忍耐と制約の中、制作された事と思います。

会期中も蔓延防止期間中でしたので、実際に展示された自分の作品を観ることが出来なかった出品者も、いたかと思えます。最終日は記録的な大雪に見舞われましたが、大きな混乱も無く無事に終了する事が出来ました。

今年の応募作品は平面作品が685点、立体作品が57点、総数が742点とここ数年間の出品数には及びませんでした。この様に例年に近い出品があり、大変嬉しく思いました。年々、作品のレベルが上がって来ていますが、今年は特に全体的に高く、時間をかけて、綿密に描き込まれ、作り込まれた作品が多くありました。

出品された作品をテーマ別に大まかに分類すると、平面作品では人物をテーマにした作品が337点、全体の49%と最も多く、空想的作品が141点、風景が88点、動物をテーマにした作品が78点、そして静物が41点といかにこの年代層に於いて自己、もしくは人間関係に興味を抱き、意識を形として表現している事が伝わりました。

立体作品は人物、動物、静物と大まかに分類してみますと、それぞれ19点づつと偶然ですが同じ割合でした。近年、作品のサイズも大きくなり、様々な素材を上手く使い、個性的で存在感のある作品が多くみられました。

大賞を受賞した 北海道恵庭北高等学校 船井勇佑さんの「Salmon」という作品は、鮭が産卵する為に遡上して来る様子をペン画による表現で、水中から勢い良く飛び跳ねた様子を、大胆

な構図と躍動感溢れるポーズで表現した作品です。水性塗料をドロッピングして水飛沫を表現したり、細部まで描き込まれた、それぞれの形は描きこむ事によってシンクロし、別の新たな形が生まれて来るような、本当に楽しんで描いている様子が見える作品でした。

準大賞の北海道教育大学札幌校 西條 拓海さんの「可能性」は石膏の塑像ですが対象をしっかりと観察して作り込まれ、作り手の意識が形となった佳作です。精神的内面を静かな表情によって、ほんの一瞬の「心の像」を表現した作品の様に見えます。それは何気ない仕草と俯く様な表情から、観る者の心を共振させる作品だからでしょう。

今回、出品された皆さんの作品は本当の意味でこの時、この年代でしか表現出来ない事を作品にしているのだと感じました。昔と違い今はスマホさえあればリアルタイムで世界と繋がり、今この瞬間どの様な、アートが展開されているかを、知る事が出来る時代に生きています。

たくさんの色々なモノを見て、色々なモノに影響され、少しずつ消化して、自分にしか出来ない表現を見つけて行ってほしいと思っています。

最後にこの様な素晴らしい作品を創り出す環境を与えて頂いた関係者の皆様、御父兄、そして指導して下さる、諸先生の皆さまに心から感謝申し上げます。





U21大賞 北海道恵庭北高等学校

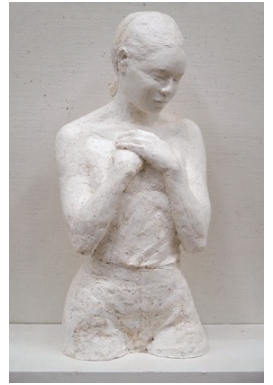
船井 勇佑

オスの鮭の厳つい顔面や少しグロテスクなビジュアルが、自分の画風と相性が良いと思いモチーフに選びました。背景の泡や波をペンキを飛ばして表現することで、独特な光沢のあるマチエールや恣意的な勢いが出てきて面白い作品になったと思います。高校生活最後の作品なので3年間で培った感性や自分の個性を、最大限に出したインパクトのある作品を作ろうと思いました。大賞に選ばれたと知らせを聞いたときは本当に驚いたのと同時に努力が報われたという嬉しい気持ちが溢れました。ですが、まだまだ課題や

未熟な部分が多いので、今回の誇らしい結果を胸に、これからも精進していきたいと思います。



第13回 U21 大賞 Salmon
北海道恵庭北高等学校 船井 勇佑



第13回 U21 準大賞 可能性
北海道教育大学札幌校 西條 拓海

第95回記念道展 会友賞・新会友 受賞者の

ことば

●会友賞 油彩 飯森 篤志

モチーフは何気ない風景、それもあまり見向きもされない忘れられた風景です。取材の納得感、理解度をキャンバスに描き込みます。場所、時間と偶然に頼ることが多く、没になる取材も多いのが現実です。

●会友賞 油彩 鈴木 信子

枯れ花の静物を描いてきました。花の表象に何かしら愛しく思い、朽ち果てる姿が美しく表現できればと構成が始まり、物質性のごつごつ、絵の具の重量に興味を持ち、試行しながら進めてきました。これからも引き出しを一杯にして、日々楽しく制作できれば幸せに思います。

●会友賞 油彩 鈴木 隆文

今回の作品は青銅の街を旅する人を描きました、建築物のデザインはその場の即興で描き、複雑かつ混沌とした絵を目指しました。

●会友賞 油彩 中山 龍雄

道展に再出品した5年前から小樽港と街並みをモチーフにしています。私は高校卒業まで小樽の山田町に住んでいました。水天宮や小樽公園が近くにあり、そこからの港の展望が大好きでした。私を育ててくれた小樽に感謝の気持ちをもって今後も小樽を描いていきたいです。

●会友賞 油彩 村瀬 千樫

若い人をはじめ多くの方々の作品に刺

激を受けながら、これまで自ら歩んできた様々な時と場を思い起こし、身体から湧き上がってくる想いを中心に、試行錯誤を繰り返しながら描いています。表現できる喜びと年齢を超え、時空を飛びまわる爽快さを味わいながら…。

●会友賞 水彩 井上智江子

冬ごもりをしているうちに時間ばかりが過ぎ、気が付けばもう三月。そろそろ今年の作品にかからねばと思いつつも重い腰が上がりません。しかし、地道に努力を重ね続けたオリンピック選手たちに刺激され、自分も少しだけ頑張ろうと思っています。

●会友賞 水彩 寺西 冴子

同じ題名で永い年月描いている。真っ白い紙を眺めている事が結構ながい。色、形、構図等が決まると何カ月も没頭して描く。白い紙を見つめている時より楽しい。色を重ねたり拭き取ったり、発色の良い紙を使用してその色も生かしたりと、試行錯誤の続く日々です。

●会友賞 水彩 佐藤恵利子

コロナ禍の息苦しさが続く中、風と光を受けて生命を輝かせる花々をことさらに眩しく感じた。今回の作品では花開く情景を抽象化して普遍的で儂い美しさを表現したいと思った。色をリズムカルに遊ばせ、まとめ過ぎないようにと自分に言い聞かせつつ制作した。

●会友賞 版画 仁藤 民江

我が家の犬はもうじき16才。その犬が最近夜中に徘徊し遠吠えをする。その度になだめすかす。仕方なく夜中に散歩へ行く。眠い、寒い、歩かない。すっかり目が覚めた。星が綺麗だ、歩く姿はめんこい。さぁーこのイメージを忘れずに制作しよう… (微笑)

●会友賞 彫刻 坂本正太郎

どんなに星が綺麗でも
どんなに風が優しくても
アスファルトの冷たさがわかればそれで良いのです。
それがとても気持ち良いのです。

●会友賞・新会員 彫刻 熊谷 文秀

今回出品の「WALKER」は、1800年代に発明されたゾートロープの原理を利用した作品でした。原理自体は古めかしいものでも、現代のPC制御技術を加える事でささやかなイリュージョンを演出することができます。愉しみの種も見つかる温故知新。

●会友賞 工芸 渡邊久美子

美術展を観た後、なぜ特別楽しかったのか不思議に感じたことがある。そして実感のなかった「パワーをもらう」という表現はこのことかと思った。作者の意欲溢れる空間には大きな力が満ちている。今後も様々な力をいただき作品作りに励みたいと思います。

●会友賞 工芸 高田由美子

きっかけは5歳のひろ君が見せてくれた小さな小さなアンモナイトの化石。「北海道ではたくさん採れるんだよ」と熱く語る少年の心が私も少し移った様です。以来、1億年の時の記憶を封印したアンモナイトに思いを馳せながら試行錯誤を続けています。

●新会友 日本画 羽子田千夏

気がつけば大学を卒業し、仕事と制作を両立するようになってから数年が経ちました。活動の場は道展だけですが出品をかさね今回新会友に推挙いただきました。これからも身近な自然をテーマに制作を続けていきたいと思っています。

●**新会友** 日本画 河合 康子
冬の嵐に耐え、春になるとハマナスは冬芽をふくらませます。花を咲かせ、つややかな実を結び、春も夏も秋も大地に根をのぼす…この生命力に魅せられました。コロナ禍でしばみそうになる心に喝を入れながら、新たな作品を前に充実した時間を過ごしたいです。

●**新会友** 日本画 中居 瀛晟
なかなか納得いく作品が出来ず、迷っている日々の中で、先月大きな手術を行い、今は絵を描ける状態では無く（頸椎手術）、春の公募展も断念いたしました。正直悔しいです。なんとか道展までリハビリに専念し、少しでも納得頂ける作品の出品と考えております。

●**新会友** 油彩 桑原 貴子
私は音楽が盛んな九州から北海道に来た。それから絵を始めるきっかけを下さった奥村正人先生に出会い、そして道展に出品するようになった。そのまま何十年も好きな作品を自由に描いてきたが、今ではその積み重ねが私の生涯になっている。

●**新会友** 油彩 伊藤貴美子
最近自然をテーマに色・形・マチエールにこだわり抽象的な作品を制作しています。何かを見て描くということはないのですが、定期的に近くの公園に行き木々をスケッチして線や形など体に覚えさせようとしています。抽象作品のリアリティーが今の課題です。

●**新会友** 油彩 大久保昌佑
数十年前、友から葡萄の苗を頂き、庭の隅に植えました。苗は大きく育ち、毎年沢山の収穫を与えてくれました。しかし、その若木も今では老木になりましたが、春には芽を吹き、秋には細やかな紫

の実と紅葉を与えてくれます。その逞しい生命力を描きたいのです。

●**新会友** 油彩 斉藤 洋子
裸婦の群像、今更ながらなんと難しいテーマを選んでしまった事かと痛感しております。裸婦像の顔に何故か重なる若き日の母・早世した画家の父・星が零れる岬のアトリエ・過ぎゆく日々へ、想いは尽きません。これからも美神の力を借り、精進して参ります。

●**新会友** 油彩 福司 康二
芦高美術クラブの皆様お元気ですか、不精者故ご無沙汰いたしております。自分も“何かもっと”雄大な雪渓や海原叙情など描ければと思案いたしますがナカナカ思い至らず拙い物懲りずに描き続けております、出品は続けております、ご笑覧いただければ幸いです。

●**新会友** 油彩 西村 司
北広島市総合体育館の北東にある小さな森を眺めていた時、スフィンクスのポーズで座す巨大な LION に見えました。様々な記憶が残る地に鎮座するその生き物は動物ではなく植物ですが、先日訪れてみると新球場建設に伴いお尻の部分を黄色い重機で削られていました。

●**新会友** 油彩 安田 祐子
函館で支部展が開催されていた学生時代に初出品してから随分と時間が経ってしまいました。出品の継続そのものが現在まで支えになっていたと感じております。より良い作品を描けるよう今後も真摯に制作と向き合っていきたいと思っております。よろしくお願ひ致します。

●**新会友** 油彩 本多 理範
長年悩まされていた不調の原因が分かり手術をした。ひと月入院して、その後

3か月の自宅療養。「持つな」「転ぶな」「風邪ひくな」と医者から色々注文をつけられた。本展は体調万全で自分らしいユニークな作品をとっているが…。

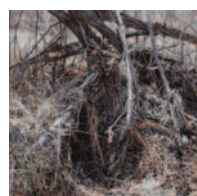
●**新会友** 油彩 山田 陽子
麦秋の七月に魅せられ、その情景を描き続ける事ができたのは、公募展という一つの目標があったからだと思います。その後テーマは変えず、新しい方向へと抽象絵画に転じ四年、今回の会友推挙。これを糧に今年も作品が出来上がる事を願っています。

●**新会友** 水彩 和田 泰子
父、叔母、子、孫と猫を描いてきましたが、今回、原点の透明水彩で100号に風景の中の猫を描き、とても楽しい時間でした。描くことは私を支えてくれる大切な作業です。コロナの時にあっても変わりませんでした。その作品で新会友になった事は大きな喜びです。

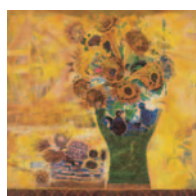
●**新会友** 水彩 工藤 幸俊
“川”をテーマに描いております。とどまることのない水の流れに感動を覚え川岸の景色と共にその時々表情が私を慰めてくれます。その想いを描きとめたいが未だ達すること遠く、いつかの想いが達する作品を…と、自分なりの表現を探りながら追い求め続けたい。

●**新会友** 水彩 太田喜久代
私は、動物を描くのが好きです。素直に懸命に命を継ぐ生き物に感動します。病の身には、空の青、小鳥の囀り、庭の薔薇の一番咲き、世界は色彩に溢れています。私もその美の一片でも絵にとどめられたらと、希い白い画紙に向かいます。

●**新会友** 版画 福地 秀樹
友人から抽象表現に気持ちが行きたがっていると言われたことがある。作品は具



会友賞 飯森 篤志
平原の情景



会友賞 鈴木 信子
夏の想



会友賞 鈴木 隆文
大壁



会友賞
小樽展望
中山 龍雄



羽ばたきの予感
村瀬 千穂



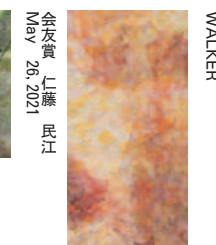
会友賞 井上智江子
初冬へ



会友賞 佐藤恵利子
Bloom-R



会友賞 寺西 冴子
野の詩(うた)



会友賞 仁藤 民江
May 26, 2021



会友賞・新会員
WALKER
熊谷 文秀



会友賞 坂本正太郎
捨【Upekṣā】



会友賞 高田由美子
風化する記憶21



会友賞が
下りる前
子



新会友 羽子田千夏
群樹



新会友 河合 康子
ここに根をはるVI



新会友 中居 流晟
毛嵐

新会友 桑原 貴子
祭の日の1角で



新会友 伊藤貴美子
偶有性の森1



新会友 大久保昌佑
秋の風



新会友 斉藤 洋子
過ぎゆくとき



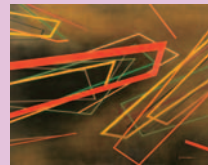
新会友 福司 康二
メキシカンパレード



新会友 西村 司
Lionの森



新会友 安田 祐子
長月のたねあかし



新会友 山田 陽子
風信(春)

絶対矛盾的自己同一理範



新会友 アノ田の猫
森子



新会友 工藤 幸俊
枯れて、なお



新会友 太田喜久代
川の記憶



新会友 福地 秀樹
鳥かごと籠の鳥



新会友 花輪 大輔
折跡



新会友 金子 道雄
緑結晶壺



新会友 澤田 正子
青藍の舞

象表現なので意外な言葉だったが、心のどこかで腑に落ちる部分があった。モチーフを眺めていると形状の面白さを追うあまりに物質の境界や名の働きを忘れてしまうことがあるからだ。

●新会友 彫刻 花輪 大輔

近年は、困難に立ち向かう人間の意志の在り様をテーマとして、内径と外径の関係性や、その関係性の向こう側にある形態の追究に取り組んで参りました。今後もこれからの道展に貢献できるよう、学生たちと共に、「美術」と向き合いたいと考えております。

●新会友 工芸 金子 道雄

結晶壺を作るのに苦勞した事は、壺全体に結晶の花を、すき間なく咲かせる事

が大変でした。釉薬の配合、濃度、温度の調整を何度も繰り返して納得のいく結晶が出来上がりました。今後も新しい結晶を作品に描いていくのが楽しみです。

●新会友 工芸 澤田 正子 陶芸にあって、こんなに土に夢中に

なっている自分が居ます。出来上がった作品は、何かしら不満足で欠点ばかり目に付きます。いつか納得のいく作品できるかな…今度こそ…の繰り返しの日々です。毎回窯から出すとき、ドキドキの神頼みです。

—道展からのお知らせ—【重要】

【『第96回道展』の搬入日と会期について】

札幌市民ギャラリーの改修工事に伴い、搬入日及び会期が一月早まります。

○会員・会友搬入日：2022年9月3日(土)

○公募搬入日：2022年9月15日(木)

○会期：2022年9月21日(水)～10月2日(日)

●2022年度の道展U21は会場である市民ギャラリーの改装工事のため、開催できませんので、ご承知おきください。

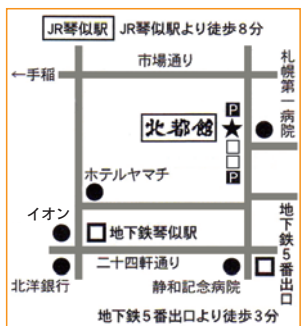
絵好きの集う店

カフェ 北都館 ギャラリー

札幌市西区琴似1条3丁目1-14 第一病院向い
TEL 011-643-5051

営業時間 水・木・金 AM10:00～PM10:00
火曜定休日 土・日・月 AM10:00～PM 7:00

メールアドレス hokutokan@sa3.gyao.ne.jp
http://hokutokan.jimdo.com



国防色とは旧日本陸軍の軍服の色だったカーキ色。戦後生まれが後期高齢者となったこの時代には死語に等しい。石川啄木は「戦争は決して地震や津波のような天変地異ではない。何の音沙汰もなく突然やってくるものではない。」と言った。常にそこにあつたくすぶり続けた火種が、業火となって燃え盛るのを、世界中が目撃させられている。

C0% M20% Y70% K60%

戦争は人類を悩ませる最大の疾病である

http://nakanishi-shuppan.co.jp



NAKANISHI PUBLISHING CO.,LTD.

since 1988

道展ニュース

No.149 [2022年5月13日発行]

発行 ■ 北海道美術協会
編集 ■ 道展広報部
URL ■ <http://www.doten.jp>
発行 ■ 笠井真紀子(中西印刷株式会社)
印刷 ■ 中西印刷株式会社

編集 後記

ロシアのウクライナへの軍事侵攻によって多くの人命が奪われ、国外へ避難をしている人達が沢山いるという悲惨なニュースが毎日報道されています。そして在日ロシア人に対して誹謗中傷が相次いでいる事も知りました。在日ロシア人の殆どは反戦を訴え、ウクライナに家族や友人がいる人達の事も忘れてはならないと感じます。砲撃を受けてしまし

たが、ウクライナに日本人アーティストが現地の人々と平和と共存を描いた壁画をニュースで見ました。ウクライナ民話の「てぶくろ」がモチーフになっており、様々な民族衣装を着た人々が大きな手袋の中で身を寄せ合っている様子を明るく色鮮やかに描いていました。所々崩れていましたが、平和と共存というメッセージは消えずに残っているようでした。(A.S.)